

- ◆ 文部科学省等からの通知に示されている運用を徹底（児童生徒・保護者とも共有）
- ◆ 熱中症などの健康被害を回避するため、教職員による細やかな目配り・声掛けを徹底

関係通知等

○ 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル ～「学校の新しい生活様式」～ 【文部科学省】（抜粋）

◆マスクの着用について

学校教育活動においては、児童生徒等及び教職員は、身体的距離が十分とれないときはマスクを着用すべきと考えられます。ただし、マスクの着用については、学校教育活動の態様や児童生徒等の様子などを踏まえ、以下のとおり臨機応変に対応してください。

- 1) 十分な身体的距離が確保できる場合は、マスクの着用は必要ありません。
- 2) 気温・湿度や暑さ指数が高い日には、熱中症などの健康被害が発生するおそれがあるため、マスクを外してください。
 - ※ 夏期の気温・湿度や暑さ指数が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。マスクを外す場合には、できるだけ人との十分な距離を保つ、近距離での会話を控えるようにするなどの配慮をすることが望ましいですが、熱中症も命に関わる危険があることを踏まえ、熱中症への対応を優先させてください。
 - ※ 児童生徒等本人が暑さで息苦しいと感じた時などには、マスクを外したり、一時的に片耳だけかけて呼吸したりするなど、自身の判断でも適切に対応できるように指導します。
- 3) 体育の授業においては、マスクの着用は必要ありません。ただし、十分な身体的距離がとれない状況で、十分な呼吸ができなくなるリスクや熱中症になるリスクがない場合には、マスクを着用しましょう。

◆登下校について

登下校時には（中略）、教員の目が届きづらいことに加えて、特に交通機関やスクールバスへの乗車中は、状況によっては「3つの密」が生じうることを踏まえ、以下のような工夫や指導が必要です。

- ・ 登下校中については、校門や玄関口等での密集が起こらないよう登下校時間帯を分散させます。
- ・ 集団登下校を行う場合には密接とならないよう指導します。
- ・ また、夏期の気温・湿度や暑さ指数が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。このため、気温・湿度や暑さ指数が高い時には、屋外で人と十分な距離を確保できる場合には、マスクを外すように指導します。小学生など、自分でマスクを外してよいかどうか判断が難しい年齢の子供へは、気温・湿度や暑さ指数が高い日に屋外でマスクを外すよう、積極的に声をかけるなどの指導を行います。その際、人と十分な距離を確保し、会話を控えることについても指導します。（以下略）

○ 保育所等における新型コロナウイルスへの対応にかかるQ&Aについて（第十報）【厚生労働省】（抜粋）

問18 保育所等で子どもにマスクは着用させるべきか。

- 子どもについては、子ども一人ひとりの発達の状況を踏まえる必要があることから、一律にマスクを着用することは求めています。特に2歳未満では、息苦しさや体調不良を訴えることや、自分で外すことが困難であることから、窒息や熱中症のリスクが高まるため、着用は推奨されません。2歳以上の場合であっても、登園している子どもが保護者の希望などからマスクを着用している場合は、マスク着用によって息苦しさを感じていないかどうかについて、十分に注意していただき、持続的なマスクの着用が難しい場合は、無理して着用させず、外すようにしてください。（なお、WHOは5歳以下の子どもへのマスクの着用は必ずしも必要ないとしています。）

指導上の留意点

✓ 児童生徒の健康状態を継続的に見ている教職員が、関係通知等を踏まえ、その日の児童生徒の様子をよく観察して、マスクの着脱を適切に判断・指導すること。

- ・ マスクの着用について、左記「1）、2）、3）」の内容を徹底するとともに、保護者懇談等の機会を通じて、児童生徒及び保護者と十分に共有
- ・ 熱中症には命に関わる危険があることを踏まえ、リスクの高い日には体育の授業内容を変更する等柔軟に対応
- ・ 児童生徒の様子に異変を感じた時は、マスクの対応のみならず、十分な水分補給など万全の対応を実施
また、一斉に休憩する時は日陰で距離を取ってマスクを外すよう指示する等、状況に応じてきめ細かく配慮
- ・ 登下校の対応について、左記の内容を徹底するとともに、保護者懇談等の機会を通じて、児童生徒及び保護者と十分に共有
- ・ 熱中症のリスクの高い日には、マスクの対応のみならず、十分な水分補給などの対応について下校時の声掛けを徹底
- ・ 幼児教育における対応は、5歳以下の子どもに対する左記の内容を徹底するとともに、保護者懇談等の機会を通じて、児童生徒及び保護者と十分に共有